

おかやま妊娠・出産サポートセンター

女性の悩み応え10年

「おかやま妊娠・出産サポートセンター」(岡山市北区鹿田町)が設立10周年を迎えた。妊娠や出産、女性の思春期の悩みに応じ、正しい知識の普及や切れ目ない支援につなげてきた。ただ自宅でお産後に乳児を放置死させたり、産後間もない子どもを虐待したりする事例は全国で後を絶たず、岡山県内でも困難を抱える女性に寄り添うセンターの役割が増している。(水嶋佑香)

「妊娠検査薬は用意できまスカ」「陽性だったら保護者に話せそうですか」

避妊に失敗した10代の匿名女性からのメールに優しい言葉で相談員が返す。

子どもと未来

信する。本人が保護者に妊娠を伝えることができない場合、どのような場面や言い方で話すのがいいかを一緒に考えるという。

岡山大病院の中央診療



設立10周年を迎えた岡山大病院内にある「おかやま妊娠・出産サポートセンター」

棟2階にあるサポートセンター。予期せぬ妊娠をした若者や産後うつに苦しむ女性らの相談に一件一件丁寧に応じる。センター長の中塚幹也・岡山大教授(生殖医学)は「一方的に助言するのではなく、ともに考える姿勢を大切にしている」と強調する。

専門家11人

センターは県が岡山大に委託し、2014年10月に開設。医師、助産師、社会福祉士ら11人が平日の午前中に交代で対面や電話、ビデオ会議システムで無料相談を受けてい

対面、電話、メールで相談減、県PR強化へ

ズーム おかやま妊娠・出産サポートセンター 広々としたオープンスペースに妊娠や出産に関する本が並び、相談に応じる個室が用意されている。木曜を除く平日午前6時～正午。対面は予約制。メール(mushin@okayama-u.ac.jp)は24時間受け付け。問い合わせはセンター(086-2625-7866)。

匿名も可能

24年3月末までの相談件数は3399件。妊娠女性の悩みに幅広く対応するセンターだが、年中の困り事や流産への不安といった「妊娠・出産」間の相談件数は23年度が1252件と最も多く、他は月経不順や体の変化などに関する「思春期」558件、パートナーの無理解などの「家族」94件など。相談を受けると必要に応じて受診を促し、関係機関への引き継ぎを行う。

中でも迅速な対応が求められるのは予期せぬ妊娠で家族に相談できず、生活にも困っているケースだ。平日の午前中だけでは対応が難しいことから、相談員有志が22年にNPO法人を発足して午後の相談を開始した。一時的に宿泊できる施設も運営し、センターとの連携で支援している。